

大門坂

12月続・臨時号 月田小学校だより

平成30年12月14日(金) 校長 小林幸雄

苦いラーメンの味!

いよいよ年末が押し迫ってきました。年の瀬といえば、気ぜわしい時季であります。子どもたちは冬休みです。しっかり手伝いをさせてください。

手伝いといえば、ほろ苦い経験をつい思い出してしまいます。あれは、ユキオ少年が小学4年のころでした。我が家は農家、父と母、それに三歳上の兄と私の4人家族です。

我が家には、一丁五反の田んぼがありました。農機具も今ほどに発達しておりません。ハデに干した稲束を集めてきては、脱穀するという時代です。日によっては、すっかり夜の帳とばりが降りて、星がきらめき出してきます。夜空を見上げながら父に星の見方を教わったことをよく覚えています。

その日は、少し遅くまで農作業をする予定だったのでしょう。夕方、一足先に家に戻って風呂焚と夕飯の準備をするよう父の命が下りました。兄は両親に負けぬ働きぶり。やや力不足の私は、家事仕事へと異動命令が下ったのであります。

重労働から解放された私は、いくぶん軽やかな気分でありました。薪に火をつけ風呂焚きを済ませ、夕飯の下ごしらえをしようと思った矢先、ユキオ少年は無性に空腹である事に気が付きます。

その当時、爆発的に売れ始めていた出前一丁に



<保健委員会による「咳エチケット」児童朝礼にて>

手を伸ばします。ラーメンは全部で4袋。その一つの袋を開けると、良心の呵責にチクリと心が痛みます。父と母、それに兄は、まだ田んぼで働いているからです。

でも、分かるはずないと一人納得し、3分も経った頃には、あったかい湯気のががるどんぶり、ラー油のほのかな香りに小さな幸せを感じます。

ところが、予期せぬ出来事が生じます。突然、3人が家に戻ってきたのです。一足早く戻った兄が言います。「ユキオ! ラーメン作ってくれ。ラーメンがあったろう。」

想定外のその言葉を聞いたとき、私は真っ青になります。自分一人だけ勝手に食べたとは、口が裂けても言えません。

その瞬間ひらめきます。「3袋のラーメンを4等分しろ」という悪魔の囁ささやきです。手がふるえるのを押さえるようにして袋の封を切り、大急ぎで作って4つのどんぶりをテーブルに置きます。

兄の空腹が押さえ切れず、一旦軽い食事を済ませ、再び田んぼに出るといふ算段に切り替わったことをこの時知ります。

4人がテーブルに向かい、ラーメンをすすります。私も食べない訳にはいきません。家族への裏切り行為をしているという悪行の味を、無理やり喉の奥に流し込む…。そんな苦いラーメンの味でした。

真っ先に食べ終わった兄が言います。

「ああ〜もう済んだ。なんか今日は少ないなあ」
少ないはず、3人分を4等分にしたのだから。

完全犯罪にするには、汁は4人前必要です。当然、味も薄くなっていたはずです。

兄の呟きに、「ばれた!」と思った瞬間、父が言います。「モトオ(兄の名)は、良く食べるようになったなあ(^_^)」(勘の鋭い父です。全てお見通しだったのかもしれませんが)

この言葉に、私の一難は救われたのであります

た。3人が田んぼに出た後、ひどく惨めな思いで片付けをしたのであります。

この歳になってもふとあの時のラーメンの味が蘇ってくるのであります。何とも情けない思い出であります。

ところで、昭和の時代に比べ、子どもたちの手伝いは、今や無きに等しい感じになってはいないでしょうか。子どもたちの健全な育成には、家族の一員として手伝いをさせることが、絶対に必須です。このことが家族の絆を深めるのです。

人権参観日の講演会

6日(木)の人権参観日に、児童と保護者対象の講演会が開かれました。講師は、盲目のシンガーソングライター、原田義雄さんです。大阪府生まれですが、92年秋より蒜山にお住まいです。



<保護者の感想の一部を紹介します>

○子どもたちはそんなに見上げて首が痛くなるのでは？と思うほど原田さんに釘付けで一生懸命聴いている姿が印象的でした。(略)とても素敵な時間で気持ちがあたたくくなりました。

○私は原田さんの講演をきかせていただくのは2回目です♪粉粉石けん 粉石けん～前も少しの間頭の中に残っていたので口ずさんでしまうことがありましたが、また、少しの間口ずさんでしまいそうです。(笑)

○原田さんの講演。トークに引き込まれ、ほっこりしました。(略)これからの季節、蒜山は大変だろうなと思いつつ、ご自身の歌もきいてみたいと思いました。

○歌とお話、とても心に響きました。歌詞の内容は子どもたちには、少し難しい部分もあったかもしれませんが、素敵な歌声とギター、一緒に歌えた楽しさは子どもたちの記

憶に残るものだと思います。

○障がい者同士でも障がい異なれば壁が出来たりするんだなあ。結局みんな同じなんだなあ。お互いがわかり合おうとする事が大切なんだなあと思いました。

○歌を通して相手の気持ちを思いやる、人とのコミュニケーションの大切さを教えて頂きました。又、相手を知ろうと(理解)する姿勢が素晴らしいと感じました。

○子どもたちも口ずさみやすいフレーズがあったり、皆笑顔で一緒に口ずさんだりしているのが印象的でした。あっという間に時間が過ぎ、個人的に今まで一番楽しかった講演会でした。

<子どもたちの感想の一部を紹介します>

○原田義雄さんがギターで演奏してくれました。原田さんは目が見えないけど、ギターが弾けてすごいと思いました。「こなせっけん」と「よっちゃん」とかいろいろな曲を聴きました。「こなせっけん」が面白かったです。

○6時間目は、講演会で原田さんが来られました。原田さんは目が見えません。でも、ギターを弾いているのですごくいいと思いました。原田さんがギターを弾いて歌って、「こなこなせっけん」という歌をみんなで歌ったのが面白かったです。また、原田さんの歌とギターを聴いてみたいです。

米作り学習・感謝の集い

12月12日(水)、5年生が米作りでお世話になった佐野譽さんをお招きし、感謝の集いを行いました。田植えや稲刈り脱穀など、これまで学んだことを発表した後、お米を使った料理を一緒にいただきました。

佐野さんは、7年間続けて米作りのお世話をしてくださっています。



<5年生と佐野さん 記念写真>